兵庫県姫路市の市街地における回遊 行動促進に関する調査研究の請負 報告書概要版

2024年3月

世界が進むチカラになる。



調査の概要

本業務の位置づけ・目的

- 姫路市が実施する地域活性化に資するイベントについて、集客効果や人々の消費行動を更に高めるための改善方策に関して 調査研究を行う。具体的には、姫路市が実施してきた様々なイベントについて、実施目的や実施状況の整理、各イベントへの 来訪者の属性やイベント前後での回遊状況等を把握し、イベントによる集客効果や人々の回遊等への影響等のイベントによる 効果等を分析する。
- こうした分析を通じて、姫路市における今後のイベントの企画立案等に役立てるとともに、イベントの効果検証に係る知見を蓄積・整理することで、政策効果の把握・分析の手法についての新たな知見を獲得し、各行政機関や地方公共団体と共有し、EBPMの実践を後押しすることを目的とする。

調査の全体像・概要

- 本業務では、姫路市が市街地で実施したイベントの実施状況等の調査、人流データを活用した人々の回遊等の分析、イベントの効果検証の適切な方法の検討を実施した。
- 姫路市が市街地で実施したイベントの実施状況等の調査ではフォーマットを用いた照会及びヒアリングを実施した。人流データを 活用した人々の回遊等の分析では㈱ブログウォッチャーより個人の行動状況を分析可能な位置情報データを購入することで分析を実施した。また、今後のイベントの更なる改善に向けて、イベントの効果検証の適切な方法の検討等を実施した。
- なお、本業務における調査期間は令和6年2月6日から令和6年3月29日までである。



分析対象とするイベントの概要

■ 本業務で分析対象としたイベントは以下のとおりである。

アクリエひめじ開館 1周年記念イベント 「Arcreaみらいラボ」・ 2022年9月1日~9月4日 ・ アクリエひめじの魅力や知名度の向上を図るオープニングシリーズの一環とし参加者数 ・ 19,855人 ・ 2022年11月2日~6日 ・ 大手前公園第35回全国陶器市第35回全国陶器市・ 2022年9月1日~9月4日 ・ アクリエひめじの魅力や知名度の向上を図るオープニングシリーズの一環としまり ・ 大手前公園	て実施
1周年記念イベント 「Arcreaみらいラボ」 ・ アクリエひめじの魅力や知名度の向上を図るオープニングシリーズの一環とし参加者数 ・ アクリエひめじの魅力や知名度の向上を図るオープニングシリーズの一環とし参加者数 ・ 19,855人 開催日 ・ 2022年11月2日~6日 開催場所 ・ 大手前公園	て実施
「Arcreaみらいラボ」 イベントの概要 き アクリエンめしの魅力や知名度の同上を図るオーノニングシリースの一環とし 参加者数 ・ 19,855人 開催日 ・ 2022年11月2日~6日 開催場所 ・ 大手前公園	て実施
参加者数 ・ 19,855人 開催日 ・ 2022年11月2日~6日 開催場所 ・ 大手前公園	
□ 日催場所 • 大手前公園	
第25回 会国购买主 開催場所 • 大手前公園	I
イベントの概要 • 全国の産地・窯元から集まる焼物の展示即売	
参加者数 • 70,000人	
開催日 • 2022年12月2日~12月11日	
開催場所 ・ 姫路城三の丸広場	
姫路城Castle History・ 滞在型観光の促進を図るとともに、姫路城は、令和5年12月に世界鏡花水月イベントの概要録30周年を迎えることから、その記念のプレイベントとして、30周年を記念の高揚を図る。	
参加者数 • 47,281人	
開催日 • 2022年5月20日~22日	
開催場所 ・ 大手前通り・大手前公園	
第72回姫路お城まつり イベントの概要 ・ コロナ禍からの脱却及び誘客促進を目的に、姫路最大級のおまつりとして 前通りをメイン会場として開催	乙、大手
参加者数 • 56,000人	
開催日 • 2023年4月7日~9日(参考:4/8観桜会)	
開催場所 • 大手前公園	
#37回ひめじぐるめらんど イベントの概要 ・ 姫路・播磨の食品会社や飲食店が、特産品・名産品を出店するとともに、する研究発表等を行うイベント	食に関
参加者数 • 33,000人	

姫路市が市街地で実施した イベントの実施状況等の調査・分析



姫路市が市街地で実施したイベントの実施状況等の調査方法

■ 姫路市が市街地で実施したイベントの実施状況等の調査では、改善に向けた検討のため「計画」・「実施」・「分析」の3段階に分けて調査を実施した。「計画」を適切に実施できていない場合には、「実施」や「分析」を適切に実施できていない可能性が高いため、「計画」・「実施」・「分析」の3段階に分けて調査を実施した。主な確認内容は以下のとおりである。

段階	主な確認内容
計画時	 計画の段階で、解決を図る地域課題、地域課題解決に向けてイベントが有効と考えられる理由、イベントにより目指す成果などを整理していなければ、イベントが地域課題の解決に繋がる可能性は低くなる。 上記のロジック・目論見の妥当性が低い場合にも、イベントが地域課題の解決に繋がる可能性は低くなる。 また、適切な広報や地域の事業者との連携が実施されていなければ、来街者の増加や地域内での消費増加等に繋がらない可能性が高くなる。 そのため、計画の段階では以下の点などを重視して確認する。 解決を図る地域課題 イベントの位置づけ イベントの成果 成果発現に向けた工夫 地域の事業者との事前調整状況 イベントに向けた広報 等
実施時	 地域課題の解決に繋がる妥当性の高いロジックを計画段階で構築していても、実施方法が適切でない場合には成果が発現する可能性は低くなる。 そのため、実施の段階では以下の点などを重視して確認する。 イベントの実施内容 イベント当日の地域の事業者の取組状況70,000人
分析時	イベントの改善方法の検討等に繋がる分析のためには、これまでの評価・分析状況を把握することが重要であるため、以下の点などを重視して確認する。イベントの成果分析状況今後の改善に係る検討状況



計画・実施・分析に係る分析結果の概要

■ 姫路市が市街地で実施したイベントの計画・実施・分析に係る分析・考察の視点及び分析結果の概要は以下のとおりである。

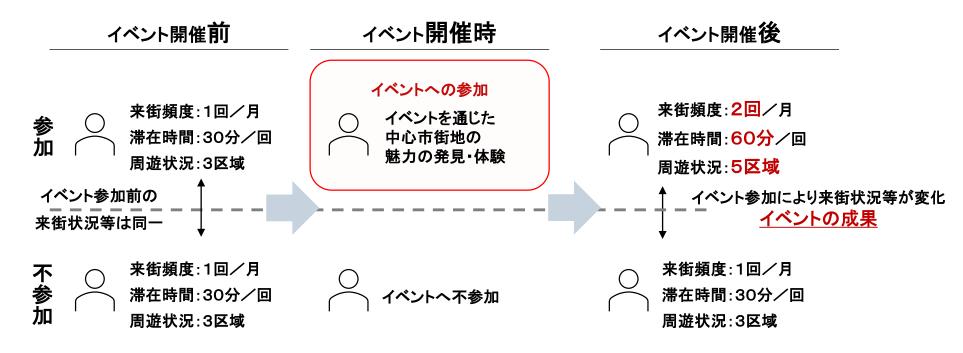
段階	分析・考察の視点	分析結果の概要
計画時	 検討・整理の実施状況 ・中心市街地の活性化に繋がるイベントとするために事前に検討・整理するべき事項を適切に検討・整理しているのかを確認する。 ロジック・目論見の妥当性の確認 ・検討・整理された事項のロジック・目論見が妥当であり、中心市街地の活性化に繋がるイベントとなる見込みがあるのかについて確認する。 	・「検討・整理の実施状況」や「ロジック・目論見の妥当性の確認」の結果、以下のような課題があった。 i)地域課題と手段の関係性が不明確な場合がある ✓ 地域課題が「まちの賑わいの創出」や「地域経済の活性化」など抽象的であり、課題解決のために有効な手段の検討や手段の妥当性を検討することが困難である。 ii)ターゲットと成果の設定が不明確な場合がある ✓ ターゲットが設定されている点は望ましい一方、抽象度の高い設定であり目指す成果や成果発現に向けた工夫方法を検討することが困難である。
実施時	適切なイベントの実施状況・計画に沿って適切にイベントが実施されているのかを確認する。	・計画どおりイベントは適切に実施されたと推察される。・ なお、イベント計画時における検討が不十分な可能性があるため、実施時のおける地域課題の解決に向けた工夫等について十分に分析・考察することはできていない。
分析時	イベントの評価状況 ・イベントの効果検証のために必要な分析が適切に実施されているのかを確認する。	 各イベントで参加者数が把握するなど重要なデータの収集・分析は実施されている。 なお、参加者数は重要な指標である一方で、改善に向けた検討・分析を十分に実施することは難しい。 収集に係る負担等を考慮しつつ、改善に向けた分析・検討のために必要な指標の収集が重要であり、そのために適切な計画時の検討が必要と考えられる。

人流データを活用した 人々の回遊等の分析



人流データを用いた分析の考え方

■ 人流データを用いた回遊状況等に係る分析では、イベントによる効果を分析するため、イベントに参加した人が仮にイベントに参加しなかった場合にはどのような状態であったのかという反実仮想を考慮して検討・分析を進めた。



■ 人流データの分析である点を踏まえ、本業務では測定対象とする成果(成果指標)を以下のとおり設定した。

成果指標	成果の考え方
来街頻度	• イベント参加者が中心市街地を訪れる頻度が増加する
滞在時間	• イベント参加者が中心市街地を訪れた際の滞在時間が増加する
周遊状況	• イベント参加者が中心市街地を訪れた際に周遊する箇所が増加する



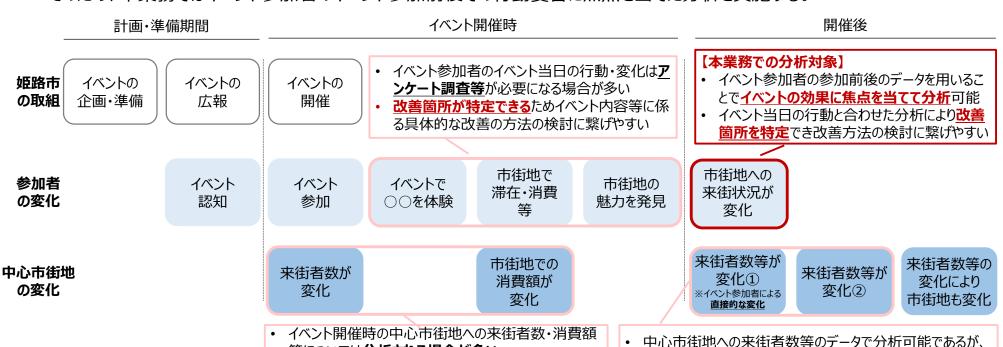
人流データを用いた分析の対象範囲

- イベントの評価・分析では、参加者数に焦点が当てられる場合も多いが、イベントに参加した人・事業者などに変化が生じていなければ地域課題の解決に繋がる可能性は低いと考えられる(なお、イベント開催による経済効果を狙っている場合などには、イベントの参加者数自体が重要となる可能性もある)。
- また、人流データを用いたイベントの分析ではイベント前後の中心市街地の来街者数の変化に焦点を当てられる場合が多いが、 イベントにより中心市街地への来街者数が増加するためには、イベント参加者の行動変容が必要になるものと考えられる。
- そのため、本業務ではイベント参加者のイベント参加前後での行動変容に焦点を当てた分析を実施する。

等については分析される場合が多い

ず、改善の検討に繋がらない場合もある

• なお、来街者数・消費額の変化の要因の特定ができ





その他の影響が多くイベントの効果を分析することは難しい

• 要因の特定ができず、改善の検討に繋がらない場合もある

購入した人流データの概要

■ 本業務では㈱ブログウォッチャーの非集計ODデータを購入した。具体的な購入条件は以下のとおりである。

対象 期間	・令和3年10月1日~令和6年2月22日
対象者	・ 姫路市中心市街地への来街者(※右図参照)
単位	・姫路市中心市街地への来街ごと(1日単位)
付加属性	 個人ID 性別 年代 居住地(市町村単位) 勤務地(市町村単位) 各イベントの参加の有無(ピンポイントの参加を含む ※右図参照) 来街日 滞在時間 中心市街地へ来街した時間 中心市街地への来街回数(1日のうちの来街回数) 中心市街地内の回遊状況(※右図参照) 中心市街地の通過 中心市街地での日を跨ぐ滞在の有無

【姫路市中心市街地の範囲及び中心市街地のエリア設定】



【分析対象となるイベント開催箇所】

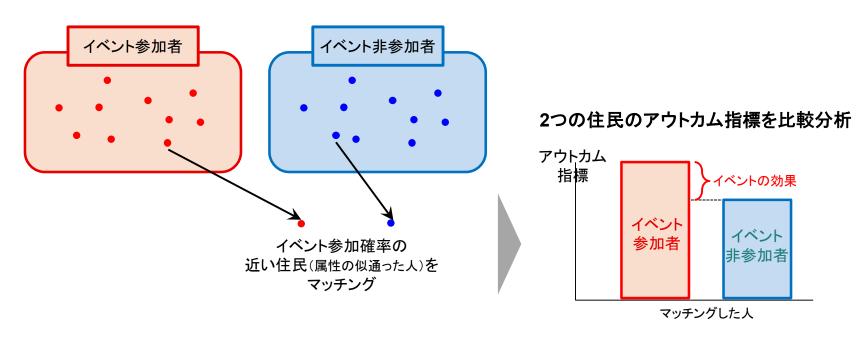


- ※非集計ODデータとは、携帯電話の端末 I Dごとに発地・滞在地・着地を並べたデータであり、匿名化された個人の行動履歴を把握することのできるデータである。
- ※姫路市中心市街地の範囲は本業務において仮設定した範囲であり姫路市中心市街地活性化基本計画における基本計画区域とは異なる。



人流データを用いた分析の実施方法

■ 人流データを用いた分析ではプロペンシティスコアマッチング(Propensity Score Matching: PSM)の手法を用いた分析を 実施した。イベントに参加していない人のうちイベント参加者と近い属性を持つをイベント参加者の比較対象と設定することで、イ ベントによる効果分析を実施している。以下は分析のイメージである。



- なお、マッチングには購入した位置情報データ(例:居住地・イベント開催前の来街頻度等)を用いているが、購入した位置情報データのみでは補足できていないものの、姫路市中心市街地の来街状況に影響を与える要素が存在することが想定され、マッチングの分析により因果関係を分析できているわけではない点に留意が必要である(実態としては、居住地域とイベント開催前の来街頻度が近しい人同士をマッチングしている状態である)。
- 事前の来街頻度や居住地が類似する人との比較により、単純にイベント参加者と非参加者のイベント開催後の来街頻度等の 差異を分析する場合と比較して、分析の妥当性を高めているという位置づけである。



分析に用いる人流データの概要

- 対象期間におけるレコード件数(1人1日単位のデータ件数)は2,242,925件であり、そのうち通過レコード(姫路市中心市街地を通過しただけで滞在していないと判定されたデータ件数)は1,316,343件、滞在レコード(姫路市中心市街地内での滞在あり判定されたデータ件数)は926,582件となっている。また、対象期間におけるレコード数に対するID件数は269,421件である。
- 上記のレコード・IDの中には、居住地が姫路市中心市街地の場合や姫路市中心市街地で夜を過ごしている場合など、本業務での分析意図を考慮すると適切でないレコード・IDも含まれているおり、分析対象から除外した。その結果、本業務では全体で128,201件のIDを対象として分析を実施した。
- また、スマートフォンの買い替え等に伴いIDは変化するため、対象期間中に観測対象であるIDが途切れる場合も少なくない。そのため、対象となるイベントの前後 6 か月間において継続して補足可能なIDを対象として分析を実施する。各イベントにおいて分析可能なID数は以下のとおりである。

イベント名	分析可能なID数	当日中心市街地 に滞在したID	イベント会場に 滞在ログのあるID	イベント日に中心 市街地に滞在がな かったID
アクリエひめじ開館 1周年記念イベント「Arcreaみらいラボ」	56,355	1,308	115	50,434
第35回全国陶器市	56,598	1,356	395	50,410
姫路城Castle History鏡花水月	51,072	1,006	95	45,802
第72回姫路お城まつり	55,457	1,924	510	49,634
第37回ひめじぐるめらんど	55,073	2,454	274	49,307



人流データを用いた分析の流れ及び結果概要

■ 人流データを用いた分析は以下の流れで実施している。

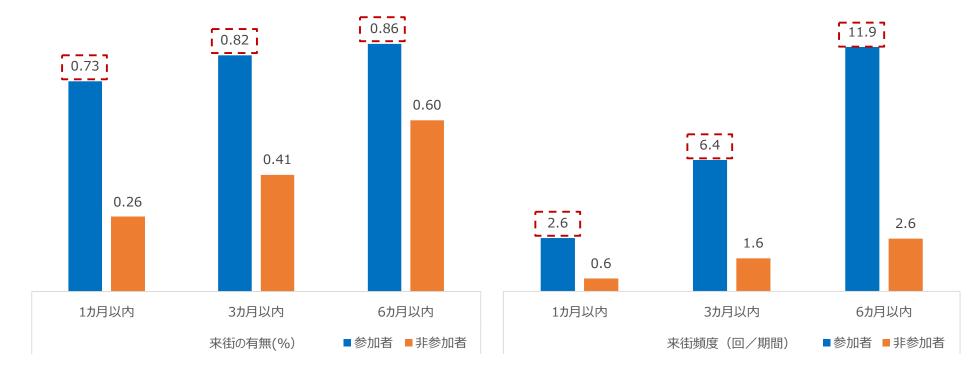
手順	実施・結果の概要
a)マッチングの必要性の 確認	• イベント参加者と非参加者のイベント開催前の中心市街地への来街頻度などが大きく異なる点を確認し、マッチングの必要性を確認している。どのイベントにおいてもイベント参加者の方がイベント非参加者と比較して、イベント開催前における中心市街地への来街頻度が多い傾向にあった(なお、本業務では対象期間内において姫路市中心市街地に1回でも訪れたことのある人のデータを分析対象としている点に留意が必要である)。
b)マッチング及びマッチングの妥当性の確認	 本業務では傾向スコアマッチング(PSM: Propensity Score Matching)の手法を用いて分析を実施している。プロペンシティスコアの算出には、イベント6カ月前の「来街頻度」及び「平均滞在時間」、「平均滞在エリア数」、「居住地ダミー(姫路市/兵庫県/大阪府or岡山県)」を用いている。マッチングは再利用ありの最近傍マッチングを実施している。 マッチング前後での傾向スコアの分布の確認や共変量の確認を行うことでマッチングの妥当性を確認した。以下は確認の例である。
c)アウトカムに係る分析	・マッチングした上でアウトカムに係る分析を実施した。マッチングした上でイベント参加者・イベント非参加者のアウトカム変数間での統計的に有意な差異の分析と、コントロール変数にイベント開催前の 来街頻度などを含めた回帰分析等を実施した
d)分析の結果	 分析の結果、全てのイベントにおいてイベント開催時の中心市街地への来街者とピンポイントイベント参加者の「来街の有無」は非参加者と比較して統計的に有意に高い結果となっている。また、「来街頻度」については「第37回ひめじぐるめらんど」を除きイベント開催時の中心市街地への来街者とピンポイントイベント参加者のいずれも非参加者と比較して統計的に有意に高い結果となっている。 なお、「滞在時間」や「回遊エリア数」は十分なデータを得られなかったことから精度の高い分析ができなかったため、参考扱いの分析として実施した。



人流データを用いた分析の結果概要

- PSMによる分析結果の例は以下のとおりである(傾向スコアによりイベント参加者と非参加者をマッチングした上で、両者の成果指標の間の差を示している。赤色の枠で囲んでいる数値はイベント参加者と非参加者の間に統計的に有意な差異があることを示している)。
- 先述したとおり、全てのイベントにおいてイベント開催時の中心市街地への来街者とピンポイントイベント参加者の「来街の有無」は非参加者と比較して統計的に有意に高い結果となっている。

【第72回姫路お城まつりの分析結果(来街頻度について)】



- ※参加者と非参加者の間に統計的に有意な差異がある場合において、赤枠で囲んでいる。
- ※上記は「イベント開催時の中心市街地」へ来街のあった人をイベント参加者、来街のなかった人をイベント非参加者とした分析の結果である。本業業務ではイベント開催時にイベント会場に滞在のある人をイベント参加者、イベント開催にの中心市街地への来街のなかった人をイベント非参加者とした分析も実施している。



人流データを用いた分析考察及び分析の限界

分析結果の解釈

■ イベント参加者のイベント開催後の「来街の有無」及び「来街頻度」は、イベント開催前の来街頻度や居住地が類似するイベント非参加者と比較して高い傾向が確認された。イベントの参加が来街頻度等を増加させた可能性がある一方、イベントの参加と来街頻度の増加の間に因果関係があることを断定することは難しい点に留意する必要がある。

分析の限界

- 本分析ではイベント開催前の来街頻度や居住地などでマッチングしイベント開催後の来街頻度等の分析を行っているが、イベント開催前の来街頻度や居住地以外でイベントの参加及びイベント開催後の来街頻度等に影響を与える要素が存在する可能性がある。
- 例えば、姫路市中心市街地への愛着・関心の違いなどが考えられる。イベント開催前の来街頻度が同程度でも愛着・関心の高い人ほどイベント情報の入手やイベントに参加する確率が高く、イベント参加者はイベント非参加者と比較して姫路市中心市街地に来街する可能性が高く、分析の結果は過剰評価となっている可能性がある。



「イベントへの参加」と「イベント後の来街頻度等」の両方に影響を与えるが 把握・分析することのできていない要素



今度のイベント開催に向けた示唆

- 各イベントには多くの参加者が来ており、位置情報データを用いたイベント参加が来街頻度等に与える影響を分析したところ、イベントの参加が来街頻度等に影響を与えている可能性が示唆されるなど、イベントはよい影響を発現している可能性があると考えられる。また、姫路市へのヒアリングではイベントの更なる改善に向けた検討が実施されている点なども確認され、効果向上に向けたマネジメントも実施されているものと推察される。
- なお、今後のイベントの更なる改善のためには、以下の事項について検討・整理することが重要と考えられる

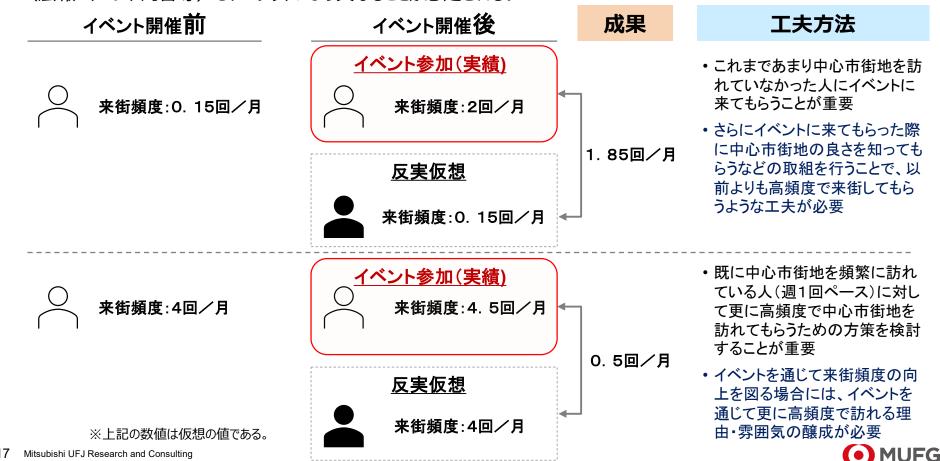
現状の課題	課題を踏まえた示唆
• ターゲットの抽象度が高く、適切な成果設定や成果発現に向けた工夫の検討の実施が難しい	 i)反実仮想を踏まえた成果及びターゲットの設定 ・イベントがなかった場合に対象者はどのような状態となっているのかを想定した上で(反実仮想を踏まえて)、ターゲット及び目指す成果を設定する。 ・反実仮想の設定の際にはイベント参加前のターゲットの状態が重要となる(例:イベント参加前の中心市街地への来街状況・消費状況等)。
各イベントにおいて参加者数は 把握されている一方で改善方 法を検討するために必要なデー タが十分に収集・分析されてい ない	 ii)イベントの開始から成果発現に至る経路の整理 ・ 改善に必要なデータが十分に収集・分析されていない要因としては、改善に必要なデータが特定されていない可能性が考えられる。 ・ 改善に向けて必要なデータを整理するためには、対象者がイベント開催時からイベント後においてどのように変化することを期待するのかを整理することが重要となる。
・解決を図る課題の記載内容の 抽象度が高く、目指す成果や 手段の妥当性を検討することが 難しい	iii)地域課題解決に向けて必要な成果の設定 ・地域課題の解決に繋がる成果の設定、成果発現に向けた効率的な手段の検討に向けて、地域 課題の具体化や課題のボトルネックの分析が重要である。
・ イベントの効果分析としては参加者数に係る分析が中心であり、計画の妥当性の分析やターゲットの参加等に係る分析は実施されていない	 iv)段階的な効果分析の実施 効果分析の際には計画時において検討するべき事項を適切に検討・整理しているのかも含めて確認することが重要である。 また、因果推論など金銭的・人的コストも要する精緻な分析を実施する前に、簡易な分析に基づき実現可能な改善に取り組むことも重要と考えられる。

今後のイベントの効果検証に 向けた示唆



i) 反実仮想を踏まえた成果及びターゲットの設定

- 本業務において、計画時に設定するターゲットの抽象度が高い場合、適切な成果の設定や成果発現に向けた具体的な工夫の検討が難しくなる点を確認した。適切な成果の設定やより効果的なイベントの開催に向けた工夫の検討のためには、反実仮想を踏まえた成果及びターゲットの設定が重要と考えられる。
- 例えば、イベント開催前の時点において来街頻度が月4回の人と月0.5回の人とでは想定される反実仮想は大きく異なることが予想されるなどイベント参加前の状態、言い換えるとターゲットによって異なることが想定される。また、イベントの工夫方法(広報・イベント内容等)もターゲットにより異なることが想定される。



ii)イベントの開始から成果発現に至る経路の整理

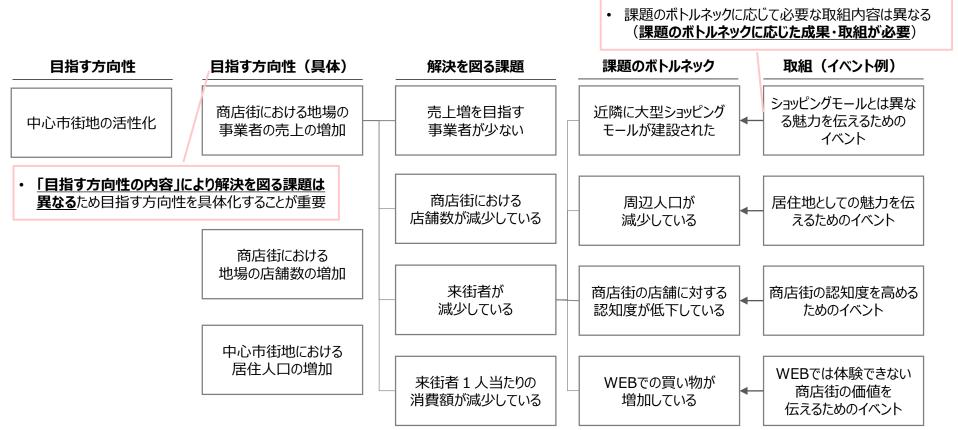
■ 本業務において、各イベントにおいて参加者数は把握されている一方で改善方法を検討するために必要なデータが十分に収集・分析されていない点を確認した。より効果的なイベントの開催やイベントの効果検証を適切に実施するためには、イベントの開催がどのように地域課題の解決に繋がるのかを整理し、改善の検討に向けて必要な指標を設定することが重要と考えられる

-	計画・準備期間		イベント開催時			開催後			
姫路市の取組	イベントの企画・準備	イベントの 広報	イベントの開催						
参加者 の変化		イベント 認知	イベント 参加	イベントで ○○を体験	市街地で 滞在・消費 等	市街地の魅力を発見	市街地への 来街状況が 変化		
指標例		ターゲットにお けるイベントの 認知状況	ターゲットのうち イベント参加 者数	ターゲットのイ ベントでの地域 の魅力の認知 状況	ターゲットのイベント参加時の地域の周遊状況	ターゲットのイベント参加時の地域の魅力の体験状況	ターゲットのイ ベント参加後 の来街頻度等	変化を定量的 指標を記	
中心市街地 の変化	1		来街者数が変化		市街地での 消費額が 変化		来街者数等が 変化① ※イベント参加者による 直接的な変化	来街者数等が 変化②	来街者数等の変化により市街地も変化
指標例			来街者数		消費額		来街者数 消費額 等	来街者数 消費額 等	店舗数 居住者数 等



iii)地域課題解決に向けて必要な成果の設定

- 本業務において、解決を図る課題の記載内容の抽象度が高く、地域課題の解決に対する目指す成果や手段の妥当性を検討することが難しい場合があった点を確認した。
- また、来街頻度や滞在時間を成果指標として人流データを用いた分析を実施したが、来街者数(来街頻度・滞在時間等) の少なさが地域課題の主たる要因(ボトルネック)である点について確認ができているわけでなない。
- 地域課題の解決に繋がる取組や効果分析を実施するためには、地域課題のボトルネック解消に繋がる成果を設定し、その成果発現に向けた取組や効果分析を実施することが重要であろう。





iv)イベントの効果検証時の示唆

- 本業務において、計画時に適切な検討が実施できていない場合も確認され、計画時の検討・整理状況の分析・評価も重要と考えられる。また、ターゲットが明確に設定されていないため、ターゲットの来街状況やターゲットの変化状況に係る分析などは実施されておらず、因果推論を実施する状態にないと考えられる。
- そのため、効果検証に際しては、以下のとおり段階的な実施を検討することが重要と考えられる。

	手順	分析内容
計	i.ターゲットの検討・成果の設定	・「地域課題解決に必要な成果の特定・設定」、「反実仮想を踏まえた成果及びターゲット の設定」、「成果発現に至るまでの経路の整理」などの適切な検討・整理状況を分析する
迪	ii.ターゲットを呼ぶ工夫・ターゲットの変容を促す工夫の検討	・ ターゲットのイベント参加を促す工夫やイベントでのターゲットの変化を促す工夫などの検 討・整理状況を分析する
分析	iii.ターゲットの参加の有無の確認	 イベントの参加者の属性を把握・分析することでターゲットとしていた層のイベント参加状況を分析する イベント参加者に対する無作為抽出のアンケートなどにより把握することが想定される 属性は性別・年代・居住地などだけでなく、来街・滞在・回遊・消費状況や認知度・交流状況などイベント参加前の成果に係る項目を把握することが重要である
		・「イベントの開始から成果発現に至る経路」で整理したイベントの参加により生じる必要のある変化の発現状況を分析する・「iii)ターゲットの参加の有無の確認」のアンケートで合わせて確認することが考えられる
	iv.ターゲットの変化の因果関係 に係る考察	「iv)参加したターゲットの変化に係る分析」の結果について定量・定性の両側面から因果関係を考察するイベントに参加しなかった場合において対象者に同様の変化が生じたのかを参加者・非参加者へのヒアリング等を通じて把握するなどの方法が考えられる
	v.ターゲットの変化に係る因果 推論	・「v)ターゲットの変化の因果関係に係る考察」の結果などを踏まえてイベント参加者・非参加者に係るデータを用いてイベントの政策効果に係る因果推論を実施する

今後のEBPM推進に向けた示唆



今後のEBPM推進に向けた示唆

■ 本業務を通じて得られた今後のEBPM推進に向けた示唆を以下のとおりである。

本業務で得た示唆	概要
地域課題解決に向けて必要 な"成果"の設定	・設定している成果が解決を目指す地域課題に繋がらない場合には、因果推論を含む成果の改善に取り組んでも結果として地域課題の解決に繋がらない可能性がある・解決を図る地域課題の具体化、課題のボトルネックの特定等を通じて発現を目指す成果を設定することが重要である
反実仮想を踏まえた成果及 びターゲットの設定	・仮に政策を実施しなかった場合にはどのような状態となるのかを検討した上で成果・ターゲットを検討・設定する・政策がなくても同じ状態になることが想定される場合や、政策を実施してもあまり変化が生じない場合にはターゲットとして適切でない可能性がある
イベントの開始から成果発現 に至る経路の整理	・PDCAの繰り返しの中での改善や効果検証の実施に向け、参加者がイベント参加時にどのように 行動・変化することが望ましい変化に繋がるのかを検討・整理する・イベント参加者の追跡調査等は難しい可能性があり、参加時点で生じて欲しい変化を整理・把 握することで評価・分析や効果検証を実施しやすくなる
段階的な効果検証	計画内容や分析状況が適切でない可能性があるため、段階的に効果検証を実施する計画時に適切にターゲット・成果等の設定を実施し、i)ターゲットの参加の有無、ii)参加したターゲットの変化に係る分析、iii)ターゲットの変化の因果関係に係る考察、iv)ターゲットの変化に係る因果関係という順番で実施を進めることがより効率的な可能性がある
段階的な効果検証に必要なデータ	・上記の分析を実施するためには、イベント参加者の状態に係るデータが重要、当該データを用いてターゲットの参加の有無、イベントで生じるべき変化の有無などを確認することが想定される・また、因果推論を実施する場合には参加者のイベント前後のアウトカム指標やイベント非参加者のアウトカム指標も必要となるためデータ収集を工夫する必要がある

